

持続可能な社会を創る税金

山形市立第四中学校 3年 佐藤 大斗

「登校前にゴミを出す」僕の日課だ。家庭内の溜まったゴミを捨て更には自分の役割を果たし気持ち良い一日がスタートする。ゴミ収集車はほぼ毎日来て、曜日替わりに粗大ゴミから小さな電池まで多種類のゴミを引き取ってくれる。もし、この様な行政サービスが無かったら家庭や公共施設、街中がゴミだらけになり想像を絶する世の中になると思う。

では、どこからゴミ収集車を稼働するための資金が出ているのだろうか？調べて見ると、僕達がスーパーなどで購入するゴミ袋代や市に納めている税金から使われている事がわかった。そして、ゴミ処理費用だけではなく公園や道路、図書館や住宅環境整備、災害復旧など僕達にとって多くの身近な場面で税金が使われている事を知り、無駄にせず大切に使うって欲しいと思うようになった。

また八月三日からの山形県を襲ったバケツをひっくり返した様な記録的大雨は県内に大きな被害をもたらした。最上川が氾濫し道路が陥没、住宅への浸水、鉄橋が崩落、車が流され行方不明者も出た。更には断水が続き自衛隊が災害派遣された。自然災害の恐ろしさを他人事ではないと感じ怖かった。そして翌日には、山積の災害廃棄物が映し出された。日常のゴミだけではなく、復旧が必要な道路や鉄橋、行方不明者の捜索や自衛隊派遣、泥だらけの廃棄物処分にも税金が使われている事も知った。

税金は、被災した後の住民の生活再建や街の復興など人々の命を守り安心して暮らせる社会づくりを担っている。誰かが納めた税金で僕達は支え合い守られている事も知ることができた。

以前は、「消費税が十パーセントも取られて高いなあ、無かったらいいのに。」と思うことがあった。もしかすると多くの人が同じように思った時があるかも知れない。なぜなら納めた税金がどのように使われてどう自分達の生活に結びついているのかを実感するのが難しいからだと思う。僕達国民は、憲法第三十条で納税の義務が定められている。納税とは納めるものであって取られるものではないのだと気づかされた。税と僕達の日常生活との深い関わりを知り納税の大切さを知った。税金は納める事によって僕達の暮らしを支えより良くしてくれる。だからこそ、国民全体で負担しなければならない。そして、限りある税金を有効活用し国民みんなが健康で安全に安心して暮らせる明るい社会になってほしいと願う。

税金は、日本の社会情勢の変化に伴い様々な課題を解決したり、未来の国づくりを考えて歳出されている。今だけではなく、将来の国民生活も豊かにするために税金は持続可能な社会づくりに必要不可欠だと思う。

僕は、今は一生懸命学び、将来はしっかり働き納税の義務をきちんと果たせる人間になりたいと思った。